

■ 親と子の都市と建築教室（第18回）（大阪会場） 活動レポート

<すま城のまわりにまちをつくろう>

日時：1日目 2018年8月4日（土）13：00～17：30

2日目 2018年8月5日（日）10：30～16：30

会場：大阪市立住まい情報センター 3階ホール

大阪市立住まい情報センター、大阪府建築士会および当支部の3団体による共催行事として子どもたちが設計者となり、親と一緒にダンボールや紙パイプを用いて「まち」をつくるワークショップが開催された。18回目の開催となる今年は小学生30名、保護者39名、学生スタッフ延べ97名が参加した。

1日目は、今回のテーマとなる城下町について、学生スタッフによるプレゼン、寸劇やクイズを通じて学習し、4つのチームに分かれて各チームのテーマに従って作りたい建物やまちのイメージをスケッチにし、1時間ほどダンボールで制作した。2日目は、午前と午後の3時間をかけて親や学生スタッフと協力しながら、子どもたちの無限の想像を具現化した「まち」を、ホールいっぱいにつくり上げた。子どもたち全員が自分の作品について熱心にプレゼンしたあと、各チームには、「楽市楽座だじょう（賞）」、「インスタ映えだじょう（賞）」、「あっぱれだじょう（賞）」、「難攻不落だじょう（賞）」の各賞が贈られ、各賞のシールと缶バッジの記念品を渡した。なお、缶バッジは昨年好評であったため今年度から予算化されたものである。

ホールには親と子のにぎやかなやりとりがみられ、「まち」を作る楽しさとともに、多くの学びと経験を得た2日間となった。4月から打ち合わせを重ねて「まちつく」の成功にご尽力いただいた、建築士会と住まい情報センターの関係者方、学生スタッフには、心より感謝申し上げます。

神澤宏明、島野幸弘、松原茂樹／近畿支部常議員



完成した「まち」と集合写真